

iid Press

第18期

2017年6月期 | 上半期報告書
(2016.7.1~2016.12.31)

We are the User Experience Company.





株主の皆さまへ

TOP MESSAGE



株式会社 イード
代表取締役

宮川 洋

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

上半期での売上高につきましては、M&A戦略の効果もあり、順調に成長を続けておりますが、営業利益については、PV数が想定よりも低く推移し、それに伴い粗利率の高い運用型広告売上高が減少したことで、セールスミックスが変化し営業利益が減少しました。

このような上期の状況を踏まえた上で、PV数および運用型広告売上高は当初予想値に達するまでには時間を要するものと判断し、通期の業績予想の修正を行っております。

一方、情報の流通が、書籍・雑誌からインターネット、携帯電話、スマートフォンへとその土台となる環境は次々と変化をしていく中で、当社では次のプラットフォームも見据えてVR(仮想現実)・AR(拡張現実)市場にも積極的に参入をしております。VR(仮想現実)・AR(拡張現実)市場はまだ黎明期ではありますが、ここに潜むビジネスチャンスを積極的につかんでいきたいと考えております。

私たちは、インターネット黎明期からメディア・コンテンツの運営を開始し、現在では40強の専門ジャンルに特化したメディア・コンテンツを運営する会社に成長してまいりました。メディア・コンテンツにおいては、ポートフォリオを増やしている段階であり、今後も積極的なM&A戦略により運営メディア・コンテンツを増やしてまいります。

コンテンツの価値は紙もPCもスマホもVRであったとしてもその価値に変わりはありません。今後も基本である、より良いコンテンツを提供することに努めて参ります。今後とも引き続きご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

Contents

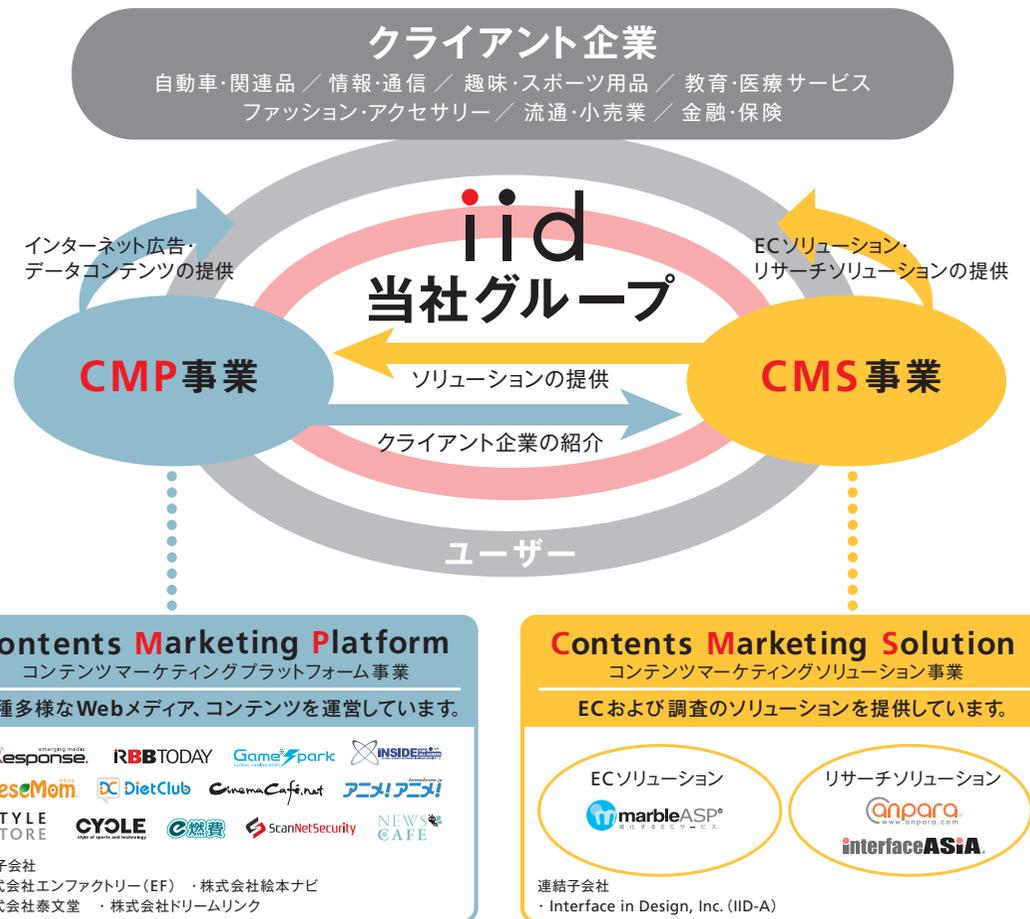
株主・投資家の皆さまへ	1	特集	5
イードの事業概況	2	会社概要・株主の概況	9
2017年上半期業績ハイライト	3		

Contents Marketing Company

イードは、Webメディア運営会社の旧IRI-CTと、マーケティングリサーチ会社の旧イードが合併して生まれたコンテンツマーケティングカンパニーです。

インターネットを活用した企業のマーケティング支援事業を軸に、すべてのステークホルダーにとって最高のUXを提供できるように挑戦し続けています。

■イードの事業概況：2つのセグメントにて事業を展開しています



2017年上半期 業績ハイライト

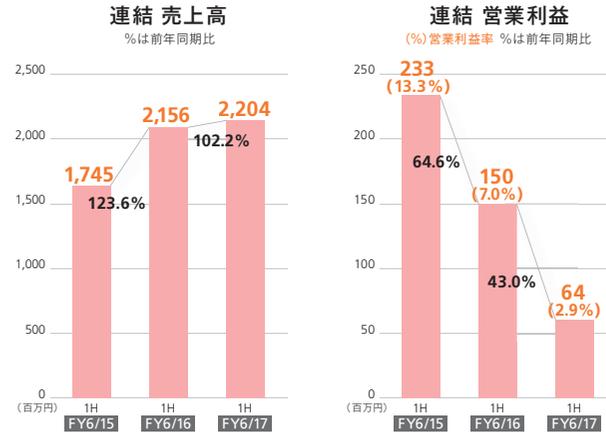
- ・連結の売上高は年平均成長率が12.8%となり、堅調な成長を維持
- ・連結の営業利益はCMP事業の減少により、前年同期より57.0%減少

上半期業績ハイライト (百万円)

連結	上半期		
	売上高	前年同期	前年同期比
売上高	2,204	2,156	102.2%
営業利益	64	150	43.0%
営業利益率	2.9%	7.0%	△4.1%

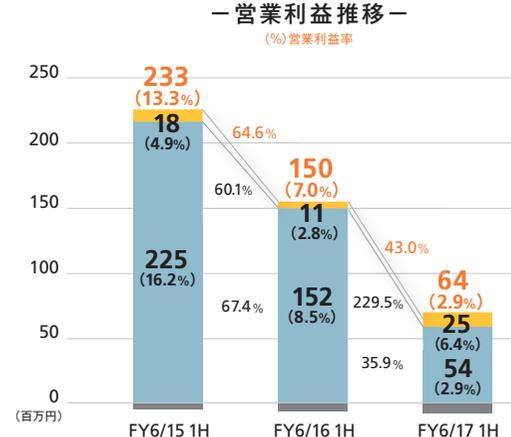
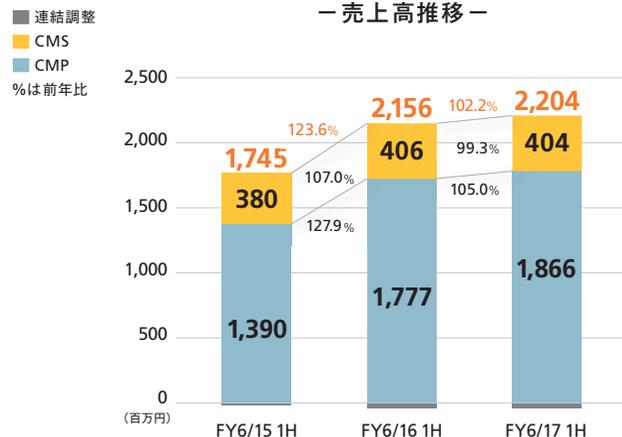
CMP	上半期		
	売上高	前年同期	前年同期比
売上高	1,866	1,777	105.0%
営業利益	54	152	35.9%
営業利益率	2.9%	8.5%	△5.6%

CMS	上半期		
	売上高	前年同期	前年同期比
売上高	404	406	99.3%
営業利益	25	11	229.5%
営業利益率	6.4%	2.8%	+3.6%



2017年上半期 セグメント別売上高、営業利益の推移

- ・CMP事業の売上高はメディア・システムの伸びにより前年同期より5.0%の増加
- ・粗利率の高いネット広告売上高が予想よりも低く推移したことでCMP事業の営業利益は減少



2017年上半期 進捗状況

- ・上半期の進捗状況を受け通期の業績予想を修正
- ・引き続きネット広告売上高回復のためにPV増加施策を実施

当上半期は売上高が2,204百万円(前年同期比2.2%増加)、営業利益は64百万円(前年同期比57.0%減少)、経常利益は64百万円(前年同期比55.9%減少)、当期利益は20百万円(前年同期比76.5%減少)となりました。

CMP事業の運用メディアにおいて当上半期の月間平均PV数が148百万PV/月となり、前期の月間平均PV数150百万PV/月から0.8%減少しました。このことが影響し、運用型広告を中心としたネット広告売上高が、前年同期比13.4%減少の696百万円となり、粗利率の高いネット広告売上高が予想よりも低く推移をしたことで、営業利益、経常利益並びに当期利益に影響を与えました。

以上のことを踏まえ、通期業績予想の売上高を5,018百万円から4,700百万円(増減率△6.4%)、営業利益を342百万円から80百万円(同△76.6%)、経常利益を336百万円から75百万円(同△77.7%)、当期利益を169百万円から0円(同△100.0%)と修正しております。PV数を増大させるための様々な施策を実施しておりますが、当初の予想値に達するには更に時間を要すると判断しております。

	FY6/17 上半期			FY6/17 通期	
	今期実績	上半期計画	上半期計画進捗率	通期計画(修正後)	通期計画進捗率
売上高	2,204	2,412	91.4%	4,700	46.9%
営業利益	64	113	57.1%	80	80.9%
経常利益	64	111	57.9%	75	86.4%
当期利益	20	49	40.9%	0	-

※当期利益とは親会社株主に帰属する当期純利益のことで、

(百万円)

2017年上半期 貸借対照表

- ・純資産合計は前期末から資本剰余金の減少により19百万円の減少
- ・のれんは償却が進み2百万円の減少

当上半期末における総資産は4,104百万円(前期末比128百万円減少)となりました。これは主に現金及び預金が122百万円減少したこと等によるものです。負債総額は1,078百万円(前期末比109百万円減少)となり、これは主に買掛金が87百万円、子会社における長期借入金が21百万円減少したこと等によるものです。純資産合計は3,025百万円(前期末比19百万円減少)となり、資本剰余金が56百万円減少した一方で、利益剰余金が20百万円増加したこと等によるものです。

	FY6/17 上半期末	FY6/16 通期末	前期末比増減額	前期末比
流動資産	2,937	3,037	-100	96.7%
現金及び預金	1,724	1,846	-122	93.4%
固定資産	1,167	1,195	-28	97.7%
のれん	520	523	-2	99.4%
資産合計	4,104	4,232	-128	97.0%
流動負債	941	1,046	-105	90.0%
固定負債	136	141	-4	96.8%
負債合計	1,078	1,187	-109	90.8%
株主資本	2,980	3,015	-34	98.9%
利益剰余金	1,285	1,264	20	101.6%
純資産	3,025	3,045	-19	99.4%
負債・純資産	4,104	4,232	-128	97.0%

(百万円)

新プロジェクトを続々スタート

2016年は「VR元年」と呼ばれ、VRを楽しむための各種デバイスが発売されました。2017年は徐々に視聴環境が整ってきたVR業界においてソフトウェアに注目が移っていきます。このVRソフトウェア市場は2025年には350億ドル規模に成長すると予測(※1)されており、イードとしてはVRも含め、様々な新プロジェクトを立ち上げ、参入してまいります。

※1 2016年1月 Goldman Sachs Global Investment Research 調べ

自動車総合メディア「レスポンス」でVRの取り組みをスタート



<http://response.jp/special/recent/3601/>

レスポンス オリジナル「360度VR試乗動画」を続々更新中!

自動車総合メディア「レスポンス」では、VRを使った「レスポンスVR・360度試乗」のコーナーをスタート。最新車種の試乗レポートに、VRを活用することで、これまで以上にクルマの迫力や魅力を体感できるようなコンテンツとなりました。既に数十コンテンツを公開し、多くの読者に好評を得ています。また、タイアップ企画をVRで実施するなどの取り組みもスタートしており、VRを活用しメディアビジネスの拡大にも繋げてまいります。

読者が自分で好きな
アングルを選ぶことができます。



安全を確保しながら、迫力のある映像を撮影しています。



アイドルに触れ合えるような体験を実現するVRシリーズ「トキメキメテオ」の展開をスタート



<http://tokimeki-meteor.jp/>

話題のVR空間でアイドル達と衝撃体験

VR技術を用いて、憧れのアイドルと触れ合えるような体験ができるVRシリーズ「トキメキメテオ」もスタートしました。第一弾には、グラビアアイドルとして活躍する、倉持由香さん、星名美津紀さんを起用。彼女たちの魅力がたっぷり詰まった作品を、3月31日(金)より販売開始します。本シリーズでは、デザイナー・プロデューサーとして活躍するカミナリコソウ氏をクリエイティブディレクターに起用。業務提携する株式会社シータの技術を用いて、高画質・高品質はもちろんのこと、物語としても楽しめる作品に仕上げています。VR市場においては、デバイスの普及も課題の一つですが、本シリーズでは、株式会社ライブエンタープライズとの提携で、簡易ゴーグルを同梱したパッケージを制作。商品を購入し、スマホささえていけばすぐに楽しむ事が可能です。VR人口の拡大にも力を入れながら、第二弾・第三弾とシリーズ展開を図っていく計画です。



倉持由香

星名美津紀

- ・専用ゴーグル
- ・オリジナルプロマイド2枚(全8種)

人気の学習まんががスマホ・タブレットで読み放題に！ 絵本ナビとNTTドコモが市販学習まんがの読み放題サービス 「学習まんが for dキッズ」を提供開始



<http://www.iid.co.jp/news/press/2017/011101.html>

最新の人気歴史まんがシリーズを中心に、科学や古典、スポーツまで69作品が参加

「学習まんが for dキッズ」では、「日本の歴史」「世界の歴史」「日本の伝記」「世界の伝記」といった歴史まんがに加え、科学、生物、古典、スポーツ、マジックや仕事入門など、楽しみながら学べて、小さなお子さまから、受験生でも役に立つ全69冊の学習まんがが読み放題になるサービスです。(ユーザーごとに、サービス利用開始時は43冊が公開、残り26冊は毎月順次公開していきます)また、今後も順次、参加作品数を増やしていく予定です。コンテンツは学習まんがに限定されており、お子さまも保護者の方も安心して利用できます。最新の人気歴史まんがシリーズが参加していることが「学習まんが for dキッズ」のセールスポイントです。

- 発売1年半で累計発行部数250万部突破のベストセラー「角川まんが学習シリーズ『日本の歴史』」
- オールカラーの美しいイラストで人気の学研まんが「NEW世界の歴史」「NEW日本の伝記」「NEW世界の伝記」

お子さま専用モード(dキッズアプリ)の利用で安心して楽しめます

「dキッズ」のご契約(月額372円[税抜])で、すでに公開されている35種類以上の子育て家族向けの知育アプリに加えて、「学習まんが for dキッズ」をご利用いただけます。「dキッズ」では、タイマー機能で使いすぎを防止するなどのお子さま専用モード(dキッズアプリ)が用意されており、保護者が安心してお子さまにサービスを利用させることができます。

毎月、読める作品が増えていく「順次公開機能」

お子さまがサービス利用開始後にひととおり読んで飽きてしまうということがないよう、「日本の歴史」「世界の歴史」「日本の伝記」「世界の伝記」では、サービス開始時の公開作品を限定し、毎月、読める作品が増えていく「順次公開機能」を備えています。毎月1日になると読める作品が増えますので、継続して利用する楽しみがあります。(読める作品はユーザーのサービス利用月数に応じて決まります)また、「読んだ本」と「まだ読んでない本」を自動的に分けて本棚ページに表示することで、お子さまの読みたい意欲を刺激する機能を備えています。



株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントとの 資本業務提携の進捗について、合併会社である 株式会社Kiraramediaにて事業開始



ママ向けファッション&ライフスタイル誌「mamagirl」(発行:株式会社エムオン・エンタテインメント)が運営するWEBサイト「mamagirl」に、読者からの投稿機能を導入し、ママ専用の投稿系SNSサイト「KiraraPost powered by mamagirl」としてリニューアル、同時にアプリ(iOSおよびAndroid向け)の配信を開始しております。

エムオンが紙媒体ブランド確立で培ったコンテンツ制作力と、イードが運営する40以上のデジタルメディアで蓄積された運営ノウハウを組み合わせ、紙媒体発メディアにおけるデジタル領域での多様なビジネスモデルを創出することを目的に、2016年6月1日に設立。今後も「mamagirl」に続き、エムオンが保有するその他のメディアについてもさまざまなWebサービスを開発・運営していく予定です。



WEBサイト「mamagirl」が、編集部から発信する様々な記事配信に加え、新たに読者からの投稿機能を導入、ママたちの交流の場となる「コミュニティスポット」を目指し、大幅にリニューアル。同時にスマートフォン向けアプリ版(iOSおよびAndroid向け)の配信も開始しております。



「ママのごほうび」をコンセプトに、「mamagirl」編集部が厳選したママ向けアイテムを販売するECサイト。国内ブランドだけでなくママに人気の海外ブランドの商品もラインナップ。さらにKiraraCart先行および限定発売商品も多数用意して、ママのこんな欲しかった!に応える品揃えです。

<http://www.iid.co.jp/news/press/2016/112801.html>

イード、「cakes(ケイクス)」「note(ノート)」を運営するピースオブケイク社と 資本業務提携。C2Cコマース、有料コンテンツビジネスなどで協業

ピースオブケイクは「デジタルコンテンツの未来を切り拓く」を掲げ、クリエイターが活躍できる市場をネット上に構築することを目指しています。具体的には、週150円で読める有料のデジタルコンテンツプラットフォーム「cakes」や、ユーザーが直接自分の文章、漫画、音楽、動画などのコンテンツを販売できるC2Cコンテンツプラットフォーム「note」を運営し、クリエイター自身がコンテンツを発表し、収益化するための場作りを進めています。

インターネットやデジタル制作環境の進化により、クリエイターが自らコンテンツを生み出し、発信し、収益化する事が可能となってきました。イードでは、ピースオブケイクとの資本業務提携により、こうしたクリエイター向けの出版やマーケティング事業にも本格的に乗り出します。また、昨年来取り組んでいるVR事業についても同社との連携を検討して参ります。



<https://cakes.mu>

cakesは週150円・月額500円(iOSアプリは月額600円)で13,000本以上の記事を閲覧できるコンテンツ配信プラットフォームです。700名以上のクリエイター、50社以上の出版社と提携してコンテンツを配信しています。インターネット上で、雑誌に変わるあたらしいメディアを再定義するためのサイトです。



<https://note.mu>

noteは個人が自由にコンテンツを作成して、ファンとのコミュニケーションできるコンテンツ配信プラットフォームです。ブログなどのように無料でコンテンツを配信するだけでなく、掲載したコンテンツを販売することも可能です。クリエイターが、文章や写真、イラスト、音楽、映像などの作品を発表して、ビジネスも含めた、ファンとの交流が可能です。

会社概要

会社名	株式会社イード (IID, Inc.)
設立	2000年4月28日
所在地	〒163-0228 東京都新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビル28階
資本金	855,685千円
事業内容	メディア事業 リサーチ事業 メディアコマース事業
従業員数	単体148名／連結206名
子会社	Interface in Design, Inc. 株式会社エンファクトリー 株式会社泰文堂 株式会社絵本ナビ 株式会社ドリームリンク



役員

代表取締役	宮川 洋	
取締役	工木 大造	
取締役	須田 亨	
取締役○	白井 俊徳	(株式会社三越伊勢丹ホールディングス 常務執行役員)
取締役○	今川 聖	(エキサイト株式会社 代表取締役社長)
取締役○	大和田 廣樹	(株式会社ブロードバンドタワー 取締役)
取締役○	吉崎 浩一郎	(株式会社グロース・イニシアティブ 代表取締役)
監査役	山中 純雄	(常勤監査役)
監査役○	岡田 智雄	(元ニフティ株式会社 代表取締役社長)
監査役○	安達 美雄	(元株式会社大塚商会執行役員)

○ = 社外役員

株主の概況

発行可能株式総数	8,000,000株
発行済株式の総数	4,931,800株
株主数	2,219名

■大株主の順位

順位	大株主名	株式数	持株比率
1	エキサイト株式会社	706,900	14.33%
2	株式会社三越伊勢丹イノベーションズ	653,100	13.24%
3	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	517,700	10.49%
4	株式会社マイナビ	400,000	8.11%
5	インスパイア・テクノロジー・イノベーション・ファンド 投資事業有限責任組合	323,800	6.56%
6	電通デジタル投資事業有限責任組合	200,000	4.05%
7	株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	175,700	3.56%
8	柿沼 佑一	125,000	2.53%
9	宮川 洋	122,000	2.47%
9	工木 大造	122,000	2.47%
11	イード従業員持株会	85,517	1.73%

株式についてのご案内（株主メモ）

上場市場	東京証券取引所マザーズ
証券コード	6038
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年事業年度終了後3ヶ月以内
株主確定基準日	毎年6月30日
株式の売買単位	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。公告掲載URL： http://www.iid.co.jp/company/koukoku やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
連絡先・郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-232-711 (フリーダイヤル)



iid Press

第18期

株主通信「イードプレス」

2017年6月期
(2016.7.1~2016.12.31)

上半期報告書

株式会社イード

(証券コード 6038)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報や判断に基づくものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。本資料の掲載内容については細心の注意を払っておりますが、その内容の正確性及び確実性を保証するものではありません。本資料に掲載されている各セグメントの数値はセグメント内に連結調整を反映する前の数値です。

IRサイトのご案内

イード IR

検索

<http://www.iid.co.jp/ir/>